

3-1. 層雲峡観光協会（北海道上川町）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

エコツーリズムについてはこれまで取り組んで来ていなかった。山岳ガイドのツアーについては、これまでも実施されていたが、大雪山の麓のガイドツアーは昨年までは行っておらず、ガイド付き紅葉谷散策を今年試験的に無料で行うこととなっている。

氷瀑まつり期間中も宿泊者限定でのスノーシュー・ハイキングを開催している。



(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 24 年 12 月 6 日（木）～平成 24 年 12 月 7 日（金）
場 所	【層雲峡】紅葉谷、大函、流星・銀河の滝、【上川郊外】旭ヶ丘
アドバイザー	株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役 松田 光輝 氏
スケジュール・方法	<p>【1日目】 上川町・層雲峡を視察（観光協会、ビジターセンター職員から説明を行う）</p> <p>【2日目】 松田氏よりエコツーリズムの説明と知床地区や他地域の先進地事例を講演いただく</p>



(3) アドバイスの内容

●12月6日（木）12：30～上川町・層雲峡視察

紅葉谷視察 → 大函 → 流星・銀河の滝 → 旭ヶ丘

雪が降り積もる中、また前日の強風で枝等が落ちているコンディションが悪い中、4ヶ所の視察となった。

層雲峡温泉にツアーでお越しになった方が見学する「流星の滝・銀河の滝」と、近年観光客が立ち寄りなくなった「大函」を見学後、冬場の見せ方のアドバイスとして、あえて駐車場の除雪をしないで苦労して見せる。その事により印象深いものとなるのではないかと。また、「大函」についても冬場は石狩川の水量が減るので夏場には見ることができない場所をガイドが付いて案内する。参加したお客はだれでも行ける場所ではないということから Blog、facebook 等にアップする確率が高くなり、層雲峡は魅力ある場所というイメージを広告宣伝する事無く覚えていただけ。今後の観光素材の見せ方（演出）について工夫が重要であるとアドバイスを受けた。旭ヶ丘視察時には女性目線を入れことが重要とアドバイスを受けた。

●12月7日（金）09：30～12：00

上川町・層雲峡地区ではエコツーリズムは行っておらず、初めにエコツーリズムや知床等の先進地の事例の講演をいただく

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

エコツーリズムの理解を深める事ができ、研修会参加者の全員が興味を持った。また、上川町層雲峡でもエコツーリズムができる環境であると認識した方も多かった。

●今後の期待される効果

上川町層雲峡にある観光資源を保護しながら有効に利用するためにはエコツーリズムへの取組が必要であると理解した。今後地域全体で真剣に取り組まなければ他の地域に遅れを取るのでは、という危機感を感じた。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

研修会に参加した多くの方が上川町層雲峡でのエコツーリズムができる可能性が高いフィールドであると認識したようだが、松田様のような志の高い事業所がなければ継続はできないとも感じた。

●その他感想

今回の研修参加者は大変参考になる事例が多くあり自社で取り入れたいという意見が多く、松田様とは情報交換や実際に知床でのエコツーリズム体験等、今後も交流を続けていきたい等の意見があった。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役 松田 光輝 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

(紅葉谷)

散策路入口までは層雲峡温泉から徒歩でも行ける場所であり、マップも作成されていることから気軽に散策できるコースとなっている。

環境は二次林ではあるがたいトドマツ等もあり、北海道らしい森林を満喫することができる。しかし、ロケーション等、一眼で分かる魅力的な資源が無いため観光的な価値は乏しいエリアでもある。

この資源を有効的に活用するためには、ガイドの存在が必要だと考えられる。クマゲラの食痕や多様な林相等、自然解説をする上でのネタはこと欠かないコースではある。

(大函)

整備された展望テラスから迫力ある層雲峡らしい溪谷を望むことができる。壁面は柱状節理で崩れる可能性があるため近づくことができないのが残念であるが、限定的な利用をすることにより安全対策を行うことは不可能ではない。

(流星・銀河の滝)

落差のある滝をすぐ真下から見学することができる層雲峡の代表的な観光地で、来訪者数が多い場所であるが、近年、利用者数が落ち込んでいる。駐車場から歩いてすぐの場所であるため、誰にでも気軽に見学することができる。しかし、滞在時間を有しない場所となっており、簡単に見ることができるのでその分感動が希薄である。

(旭ヶ丘)

十数億円の予算を投じ、オーベルジュと花のガーデンを建設中。天候が良ければ大雪山が望めるロケーションも素晴らしい場所である。近年、北海道では紫竹ガーデン等人気を呼んでいるが、魅力あるガーデンを維持するためには管理コストの捻出が課題である。

●アドバイス（講義等）の概要

今回は、悪天候のため黒岳ロープウェイの見学は取りやめとなった。見学した場所は、車でのアクセスが容易で、かつ車から降りて短時間で見学できる場所ばかりであった。

自然資源を魅力的に活用するためには、ストーリーが大切である。

簡単に短時間で見せるのではなく、そこまでのルートの作り方によっても感動の度合いは大きく変わる。

また、大函のような魅力的な観光資源ではあるが、崩落の危険性があるため近くで不特定多数の利用は難しい場所では限定的な利用を進めるのであれば、迫力ある資源を更に感動的に見せることも可能である。

この講演会では、ヒグマがいるため安全確保を行いながら利用調整地区として利用している知床五湖の事例を中心に行った。利用をコントロールすることにより、資源の魅力を更に高めた事例である。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

宿泊数の落ち込みを解消するために、新たな観光資源の発掘や既存の観光資源の魅力向上を模索し、意欲的に活動している。

宿泊者数を増やすためには、観光客の滞在時間を延ばすことと、宿泊しなければ見ることや体験ができない観光資源を積極的に打ち出す必要がある。例えば、夜や早朝の自然体験は、この地域に宿泊しなければならないので、ぜひ、取り組んで欲しい。

限られた観光資源を有効に活用するためには、自然ガイドの存在は有効であるため、自然ガイドの養成も徐々にであっても確実に行って欲しい。

